

《パブリックコメント意見の要旨と市の考え方》

○案件 十日町市公立保育園の統廃合及び民営化計画(案)

○募集期間 平成 23 年 6 月 20 日～平成 23 年 8 月 10 日

○ご意見の件数(意見提出者数) 16 人

上記のほか 3 人から意見が提出されましたが、氏名の明記が無いため「十日町市公立保育園の統廃合及び民営化計画(案)」意見公募手続(パブリックコメント制度)実施要領に基づき、受付られませんでした。

【寄せられたご意見・ご要望とそれに対する市の考え方】

受付 1

十日町市中条庚 963 番地 3
多田 朋孔 様

寄せられたご意見・ご要望

現在、北原保育園に 3 歳の息子を通わせております。ですが、この子が卒園しないうちに保育園を廃止するという案が市報で公開されました。

北原保育園はこの 6 年間で 8 人の園児が増えており、同じ地域の中では最も園児が増えている保育園です。また、同じ地域では唯一の公立保育園でもあり、地域のコミュニティのひとつにもなっています。

まだ確定していないにもかかわらず、市報にあのような形で載せるのは進め方として良いとは思いません。しっかりと保護者や地元の話ができた上で市報に載せるべきだと思います。可能であれば、別の機会に市報で「まだ確定ではない」という事を明記してほしいと思います。

市の考え方

市では、十日町市保育料統一化及び保育園民営化計画策定委員会から「十日町市公立保育園の統廃合及び民営化に関する提言書」の提出を受け、5 月に「十日町市公立保育園の統廃合及び民営化計画（案）」を公表しました。

市報 6 月 10 日号にこの案を掲載しましたが、これは案の段階で市の方針を広く公開して、内容についてご理解いただくとともに、パブリックコメント等を通して案に対するご意見・ご提案などをいただきたいと考えたからです。廃止・統合の目標時期を明示しましたが、市の姿勢として期間を明確にして取り組んでいく必要があると判断したためです。目標時期が急にだされ、困惑が生じたことについては承知していますが、市の進め方にご理解をいただければと思います。

一方、北原保育園の園児数はここ 10 年間ほぼ 20 人台で推移しており、統合・廃止する公立保育園の基本要件である「児童数が少なく、同年齢児の集団保育の実施や効率的な運営が困難である」に該当します。市内には、公立保育園のない地区がいくつかあり、公立にこだわらず、私立保育園が近隣にある場合はそちらにお願いしていきたいと考えています。

以上により、計画の修正は行いません。

【寄せられたご意見・ご要望とそれに対する市の考え方】

受付 2

十日町市中条庚 963 番地 3

多田 美紀 様

寄せられたご意見・ご要望

私は、先日東京の保育園（幼稚園）へ呼ばれ、十日町での暮らしについてお話をさせていただく機会がありました。そこはビルの2階で、園庭もなくお部屋もそんなに広くないワンフロアのみで、走った子は先生に叱られていました。自分の子を北原保育園に預けている私としては窮屈そうに思え、少し気の毒にさえ思いました。

今、北原保育園廃止の案が出てきていますが、本当にもったいないと思います。十日町の魅力は豊かな自然に触れられるところだと思います。その自然を守っていくためにも、都会では決して真似できない「里山保育」を実践したり、子どもの保育・教育を市として充実させることで若い世代が住みやすくなり、地域としても活性化すると思います。

市の考え方

北原保育園をはじめ、市内保育園の多くは豊かな自然に恵まれた環境の中で、のびのびと子ども達が育まれており、良い保育環境にあると思います。

その中で、市には市全体を見通して子育て支援や時代ニーズに合った保育サービスの充実を図っていくという責務があり、そのために望ましい保育や効率運営の面などから公立保育園の適正配置を見直し、統廃合・民営化を進めることによって財源を確保していきたいと考えています。

その財源は、障がい児・気になる子などの保育の充実、私立保育園に対する支援充実、子ども医療費の無料化、発達支援センターの運営充実、予防接種事業の拡充など子育て支援全般に充てていく考えです。

北原保育園は他の2園に比べれば建築年は最近ですが、木造平屋建であり、耐震構造ではなく、地震・豪雪などにより老朽化が進んでいます。建物面からは好ましい保育環境とは言いがたく、改築には多額の経費がかかること、子ども達にとってより望ましい保育のあり方などを勘案して廃止を打ち出しました。近隣に私立保育園があり、充分対応できるものと考えています。

地域に保育園があることは望ましいことですが、なくても地域活性化の取り組みには様々な手法がありますし、若い方々が一生懸命な地域ですので、具体的なお提案をいただきたいと思います。

以上により、計画の修正は行いません。

【寄せられたご意見・ご要望とそれに対する市の考え方】

受付 3

十日町市中条庚 1128 番地 6

庭野 眞知子 様

寄せられたご意見・ご要望

計画（案）を読んで、「財源がないから保育園を統廃合及び民営化しなければならない」の内容で貫かれていると思いました。

平成 22 年 11 月に提出された「十日町市保育料統一化及び保育園民営化計画策定委員会」の提言書も拝読しました。それには、はじめにで「市長から公立保育園の民営化について提言を求められた」とあり、それに沿った提言がされたと思いました。

計画（案）Ⅱの冒頭で「女性の社会進出や就労支援などを図りながら、未来を担う子どもたちを育成していくことは、少子高齢化社会において市が取り組んでいかなければならない重要な責務です」とあります。このことと、保育園を減らす統廃合民営化計画（案）は矛盾するのではないのでしょうか？

子育て支援の充実及び少子化対策にならない「十日町市公立保育園の統廃合及び民営化計画（案）」の再考を望みます。

市の考え方

十日町市保育料統一化及び保育園民営化計画策定委員会では、公募をはじめとした住民代表及び関係団体代表の 10 名の委員により協議が重ねられ、当市の将来を見据えた中で、公立保育園等のあり方について画期的な提言をいただきました。

計画のテーマには、子育て支援や時代ニーズに合った保育サービスの充実が求められる中で、一層の行財政の適正化を推進し、限られた財源を有効に活用していく必要があること。また、未来を担う子ども達を育ていくために、より望ましい保育環境を整えていかなければならないということがあります。

保育園から小・中学校へと続く集団生活の中で、幼児期は人間形成や基本的な生活習慣を身につけるための大切な時期であり、子ども達の成長を一番に考えた場合、一定規模以上で、同年齢児の集団保育が行われる環境が望ましいと考えています。

これらに対処していくためには、まず公立保育園の配置の見直しが必要であると考え、老朽化した保育園、30 人規模の保育園を対象に近隣に代替施設があることを条件に統廃合、民営化など具体的な取り組みを盛り込んだものであります。

私立保育園は乳児保育、延長保育、休日保育などのニーズに迅速に対応し、柔軟な取り組みを行っています。私立保育園に担っていただける地域においては、前記条件により公立保育園を廃止したいと考えています。

統廃合により生みだされた財源は、障がい児・気になる子の保育充実や私立保育園への支援充実、子ども医療費の無料化、発達支援センターの運営充実、予防接種の拡充などに充てていきたいと考えています。

以上により、計画の修正は行いません。

【寄せられたご意見・ご要望とそれに対する市の考え方】

受付 4

十日町市四日町 1410 番地 10
安保 サイ 様

寄せられたご意見・ご要望

幼児教育・保育、学校教育等「人を育てる」事業は、自治体の根幹をなす大切な仕事だと思います。お金がかかるからといって、簡単に公から民へと移すことには、賛成しかねます。

まず、公立保育園が抱える問題点として、計画（案）に載っていることから考えを述べてみたいと思います。

(1) 園舎の老朽化

これは、こういう事態にならないうちに必要に応じて市が修繕、改築などをしてこなかったことではないのでしょうか。これからでも心地よく安全な園舎をめざしたらよいと思います。

(2) 入園児童数の定員割れの状況

なぜ、私立が111.2%に対し公立が83.6%なのかを考えてみなくてはならないと思います。(1)の事情も関連しているのではないのでしょうか。あるいは「はじめに」に書かれているような多様な保護者のニーズに応えた受け入れが不十分だからではないのでしょうか。公立こそ本当は、そういうことに対応していただきたいと思います。

(3) 正規職員の減少と臨時職員割合の増加

正規職員の採用をひかえているのは、市の方針ではないのでしょうか。それを改め、正規の職員を抜本的に増やして欲しいということが私の願いです。働いている人が誇りと責任をもって園児に対応できるためには、生活の心配なく職場に向かえることがとても重要です。免許をもち意欲のある若者をぜひ正規の職員に採用して下さい。「クラス担任に臨時保育士を配置せざるを得ない状況」だから公立から私立へなど考えが逆立ちしていると言わざるを得ません。障がい児など発達が気になる児童が多くなる傾向と臨時職員の増加を関連させて問題点に述べていますが、これもおかしい話です。問題をもつ子には、それなりの専門家が必要ではありませんか。「保育資格のある人を臨時で雇いたい」など、雇われる立場で考えたらとても困ることです。また、子どもたちに対しても失礼なことだと私は思います。

(4) 保育園の運営費にかかる市の負担増（資料5）

「児童一人当たりの市の負担額は年額、公立約53万3千円、私立27万4千円」公立は私立の2倍かかることを民営化の理由にしています。資料5を見ると国・県の負担金及び補助金・交付金の計が、私立には国や県から約3億6千2百万円、公立には約2億4百万円となっていました。なぜ、こんなに差があるのでしょうか。私立へのお金が減ってしまうことはないのでしょうか。これでは、公立という名前が泣いてしまいそうに思います。

次にⅡ十日町市全体の保育のあり方についての項にかかわって意見を述べたいと思います。

保育園や学校はその地域の人が安心して暮らせる大事なよりどころだと思います。私は近くに公立はなかったので、一番近くの私立に預けて子育てをしました。未満児を

預かっていただけなくて困り、2つの保育園に預け回って仕事に行きました。今はどの保育園もあずかって下さるようになり女性が働きやすくなったと思います。

また、できるだけ、近くに保育園があるということは、働く家族にとっても、子どもたちにとっても決定的に重要なことだと思います。「そこに住んで子育てができるよ」と若い人たちに永住できる場所をアピールしている優しい十日町市を感じさせます。ところが定員割れだとか老朽化を理由に廃園ということは、もう何キロも車を走らせなければならなくなり今でも遠いくらいの人はもっと遠くなり、祖父母は孫を迎えに行けなくなり、「人につらいまち」になってしまうのではないのでしょうか。関口市長公約の1番目に「人にやさしいまちづくり」がありましたが、これと全く反対の案となっていると思うのですが、市長さんはどうお考えでしょうか。

私は橘保育園も北原保育園も川治保育園も統合したり、廃止にしたりしないことを要望します。25人、27人、30人こんなに子どもたちがいたらとても賑やかで楽しそうです。効率で子育てを考えてほしくありません。

市の考え方

市内には多くの私立保育園・私立幼稚園があります。保育・幼児教育についても、公立にこだわることなく、民間に担っていただける分野だと認識しています。

これらから、公立保育園において、園児数が少なく同年齢児の集団保育の実施や効率的な運営が困難であること、園舎の老朽化、当該施設を統合・廃止しても近隣に代替施設があることを条件に3園の統廃合を計画しました。

(1) 園舎の老朽化

各園舎は必要な都度修繕を行っています。その中で建築から30年以上が経過している木造平屋建ての園舎が公立12園中6園あり、改築の時期を迎えているため、その事業費等も見据えて、今回の計画をたてたものです。

(2) 入園児童数の定員割れの状況

私立保育園においては、保護者ニーズに迅速に対応して乳児保育、延長保育、休日保育などが行われています。これは、私立保育園における柔軟な対応力とともに、特別保育に対する国県の補助が私立保育園に手厚く、公立保育園にはほとんどないことも要因となっており、これも私立保育園に担っていただきたい理由のひとつです。

(3) 正規職員の減少と臨時職員割合の増加

市では、500人体制を目指す中で正規保育士が減少している状況にあります。

人件費などの固定費を抑えることによって、その財源で子育て支援のためのサービスを拡大していきたいと考えています。

そのため、公立保育園の統廃合を図り、私立保育園に担っていただける地域はお願いしていくことによって、公立保育園の正規保育士の割合を増やしていきたいと考えています。ただし、臨時職員の中でも、実際にクラスをもっている准担任の職務は正職員化を図っていくべきだと考えています。

このため、今後の退職者の動向や統廃合計画の進捗状況などを踏まえ、市全体の職員定数適正化計画とも整合性を図りながら、計画的に採用を進めていくこととし、来年度採用予定の正規保育士の募集を行っているところであります。

(4) 保育園の運営費にかかる市の負担増

小泉内閣時代に行われた三位一体の改革によって、民間誘導の施策が推進されまし

た。このため、保育園運営に対する国県の補助金について、公立では市の一般財源化が図られ、私立保育園における特別保育等に対する補助が手厚くなっています。現在、国において幼保一体化によるこども園の導入等が審議されていますが、補助体系などは不透明な状況であり、この推移を注視していきたいと考えています。

次に、近くに保育園があることは望ましいことですが、市では限られた財源を有効に活用して市内全般に渡って行き届いた子育て支援を実施していく責務があります。

一方、幼児期は人間形成や基本的な生活習慣を身につけるための大切な時期であり、子ども達の成長を一番に考えた場合、一定規模以上で、同年齢児の集団保育が行われる保育環境が望ましいと考えています。

これらのことから、少人数等を要件として公立保育園の統廃合による適正配置に努めるとともに、生みだされた財源によって障がい児・気になる子の保育充実や私立保育園への支援充実、子ども医療費の無料化、発達支援センターの運営充実、予防接種の拡充などを図っていきたいと考えています。

以上により、計画の修正は行いません。

【寄せられたご意見・ご要望とそれに対する市の考え方】

受付 5

十日町市

＜非公開希望＞

寄せられたご意見・ご要望

北原保育園は自然に恵まれ、のびのび保育が行われている環境です。今後は、唯一の障がい児教育の場として残していく方向で存続してほしいと要望します。

市の考え方

北原保育園は畑や森に囲まれ、豊かな自然環境の中で保育活動が行われています。
しかし、少子化が進む中で、園児の数は30人に満たない状況であり、施設も老朽化し、近隣に代替となる保育園があることから廃止を計画いたしました。

一方、障がい児や気になる子の増加に対応した保育の充実は重要です。このため、私立保育園における障がい児保育への支援拡充を図り、市街地の公立保育園においてその機能を強化していきたいと考えています。

以上により、計画の修正は行いません。

【寄せられたご意見・ご要望とそれに対する市の考え方】

受付 6

十日町市池谷
曾根 武 様

寄せられたご意見・ご要望

十日町市は、中心地より周辺の山間地に資金の支援など力を入れてほしい。なぜなら、中心地は自力で経済を維持・発展させることができるが、山間地にはその力が不足しているから。池谷集落に移住した若者が安心して子育てできるよう、配慮をお願いしたい。

市の考え方

計画のテーマのひとつに、未来を担う子ども達を育んでいくために、より望ましい保育環境を整えていかなければならないということがあります。

保育園から小・中学校へと続く集団生活の中で、幼児期は人間形成や基本的な生活習慣を身につけるための大切な時期であり、子ども達の成長を一番に考えた場合、一定規模以上で、同年齢児の集団保育が行われる環境が望ましいと考えています。

これらのことから、公立保育園の配置の見直しが必要であると考え、老朽化した保育園、30人規模の保育園を対象に近隣に代替施設があることを条件に統廃合、民営化など具体的な取り組みを盛り込んだものであります。

北原保育園の近隣には、私立保育園が幾つかあり、通園バスの対応も可能であると伺っています。

なお、統廃合により生みだされた財源は、障がい児・気になる子の保育充実や私立保育園への支援充実、子ども医療費の無料化、発達支援センターの運営充実、予防接種の拡充など子育て支援全般の充実に充てていきたいと考えています。

以上により、計画の修正は行いません。

【寄せられたご意見・ご要望とそれに対する市の考え方】

受付 7

十日町市中条己 2976 番地 1（北原）

大淵 武一 様

寄せられたご意見・ご要望

・北原保育園の統合について

7月6日に説明会を開かせていただきましたが、現状では時期尚早と思われるので意見を申し上げさせていただきます。

一つは、現状ではほぼ定員近くの園児がおり、近接する中条保育園は4人の定員超過、大井田保育園は10人の超過、むつみ保育園は18人の超過となっている状況であり、全体を考えても単純な総論に基づく理由だけでは、地域全体での具体的なメリットが見えず、経費を含め具体的な考え方をまとめて納得のできる説明をいただきたいと思います。

二つ目は、建物の有効活用ですが、木造ではあるものの昭和53年建築であり、一般的な考え方からすればまだまだ使えるのではないかと思いますので、いずれ本当に使えなくなるまで廃止を見送り、有効活用をはかるべきと考えますが、余寿命の判断は誰がどのように考えたのでしょうか。

三つ目は、少子化と同時に高齢化が進んでいる中で、高齢者と一緒にケアできる保育園として何かを実験的にやっているには好都合の大きさではないかと思います。高齢者が園児と一緒にいることのメリットは、テレビ等でも放映されております。

市としても、チャレンジ精神を期待しますし、地域としても協力を惜しみません。

市の考え方

一つ目の統廃合によるメリットについてですが、現在の少人数での保育から周辺の保育園に移ることにより、年齢や発達段階に合った保育や集団保育が受けられやすくなるのが子ども達の成長を考えた場合ベターだと考えています。周辺保育園は定員超過の状況ですが、施設規模からは、まだ受入れが可能です。

一方、統廃合により生み出された財源は、障がい児や気になる子への保育の充実や私立保育園への支援の充実、子ども医療費の無料化、平成25年4月にオープンします発達支援センターの運営費、予防接種の拡充など十日町市の子ども達全体への支援が充実するよう充てていきたいと考えています。

二つ目の建物の有効活用ですが、昭和53年建築であることで今すぐ使用に耐えない状況になるわけではありませんが、維持管理に相当額の経費を必要とします。

さらに、当市では、平成16年の中越大震災や本年の長野県北部地震の被害を受け、豪雪などを含めて今後の安全性を考えますと老朽化は大きな問題と捉えています。

三つ目の高齢者とのコミュニティのご提案ですが、一つ目に回答しましたとおり本園の統廃合を進めさせていただきたいことから、その対応については現在考えておりません。ご提案の件は地域内等で取り組んでいただければ幸いです。

以上により、計画の修正は行いません。

【寄せられたご意見・ご要望とそれに対する市の考え方】

受付 8

十日町市川治 1536 番地 12
上村 晃子 様

寄せられたご意見・ご要望

・公立保育園の統廃合計画について

小学校への土台づくりでもある大事な幼児期を、小人数でも手をかけゆっくりと保育をしてもらいたいと望んでいる保護者は多数います。また、いろいろな面で私立では受け入れのできない児童も、小人数の公立保育園では可能であり、それなりの先生方が保育してくれるため、その子の発達も著しいものだと思います。本来の公立の必要性というものをもう一度考えるべきだと思います。総合的な保育ができる小人数制の保育園が十日町にあっても良いのではないのでしょうか。

提言案を作成する際に、今現在通園している保護者の意見を聞かないままできあがり、発表されるという所で疑問があります。まず第一に保護者の声を聞いた上で作成されるべきではないのでしょうか。

市の考え方

少人数保育の良さは承知していますが、子ども達の成長を一番に考えたとき、できる限り一定規模以上の保育園での同年齢ごとに発達段階にあった保育が重要だと認識しています。また、運営の効率化の面からも、公立保育園の配置の見直しが必要です。これらのことから、政策的に少人数の公立保育園を運営していく考えは持っていません。

私立保育園で受入れが難しい特殊な場合のほかは、公立、私立とも運営に差異が生じないように取り組んでいく所存です。

一方、計画策定の進め方ですが、この計画は、保護者代表者などの住民代表と保育園などの関係団体で構成した「十日町市保育料統一化及び保育園民営化計画策定委員会」から提出された「十日町市公立保育園の統廃合及び民営化に関する提言書」を基本に、市として市全体の将来の保育・子育ての在り方を見通したうえで、熟慮を重ねて作成しました。

市の姿勢として、計画を策定した段階で公表する必要があると考えていますし、説明会などで保護者、地域の皆様のご意見・要望等をお聞きしており、進め方についてご理解をお願いいたします。

以上により、計画の修正は行いません。

【寄せられたご意見・ご要望とそれに対する市の考え方】

受付 9

十日町市川治乙 2402 番地
大津 由加利 様

寄せられたご意見・ご要望

保育園の遠方化にあたり、バスでの送迎が考えられているのでしょうか。維持費、人件費もかかると思いますが・・・。

障がい児が増えている中、つくし園（川治保育園）の廃止はとても残念に思います。施設を一つにまとめる事は、経費削減面しか考えられていないのではないのでしょうか。

私にも1級の障がいをもつ子どもがいて、公立保育園に通わせてもらっていました。人から手をかりなければ生きていけない中で、健常な子ども達にも（親にも）こんな病気があるという事を小さいうちから自然なかたちで身近に感じてほしいと思い、優しい気持ちで接してもらうことができました。先生や親子さんには心配をかけてしまう面と健康上のリスクはありますが、将来大人になっていく子ども達には、とても大切な経験だと思います。

25年度から導入を目指している「こども園」の創設を、慈光保育園の待機児童の解消、近辺の保育園の鉄筋コンクリートの経過年数、震災対策等と共に考えていってほしいと思います。「是非川治地区で！」と思います。

市の考え方

受け皿として想定しています一部の私立保育園ではバスの送迎を実施していますが、十日町地域の公立保育園では送迎バスについて考えておりません。

現在、市ではつくし園の代替施設として十日町小学校改築工事に合わせ発達支援センターを平成25年4月の開設を目指し併設建設中ですのでご安心ください。

一方、障がい児や気になる子の増加に対応した保育の充実は重要です。このため、私立保育園における障がい児保育への支援拡充を図り、市街地周辺の公立保育園においてその機能を強化していきたいと考えています。

計画に基づく統廃合により生み出された財源は、障がい児や気になる子への保育の充実や私立保育園への支援の充実、こども医療費の無料化、発達支援センターの運営費、予防接種の拡充などに充てていきたいと考えていますので、十日町市の子どもたち全体へのメリットになることにご理解をお願いします。

中里・松代・松之山の各地域には保育園は1園(全て公立)しかありませんが、十日町地域には公立・私立等19園あり、保育園の適正配置が必要なことなら、一定の条件のもと川治保育園などの廃止・統合を計画させていただきました。

「こども園」につきましては、国の方向が決定しだい、その指導に基づき市内の私立保育園、幼稚園の関係者と協議しながら計画を進めていきます。

以上により、計画の修正は行いません。

【寄せられたご意見・ご要望とそれに対する市の考え方】

受付 10

十日町市妻有町西 3 丁目 1 番地 4

仲村 美幸 様

寄せられたご意見・ご要望

私は、保育園の老朽化や定員割れと言うだけで廃止にするとするのはおかしいと思います。それぞれの地域、地区に必要な保育園は残すべきだと思います。保育園に入園する際に、第一、第二、第三希望という欄があったと思います。申込みから決定の通知を出す段階で、それぞれの園に対して入園児童の人数調整というのはできないでしょうか。調整することで、定員オーバーや定員割れなどでないと思います。

もっと子ども達の気持ちになって廃止案を見直してもらいたいです。

市の考え方

市では、入所児童数の少ない保育園では混合クラス編成となっていることなどから、これをできる限り解消し、同年齢ごとに発達段階にあった保育を進めていく必要があると考えています。

また、子育て支援や保護者ニーズに合った保育サービスの充実が大きな課題であり、限られた財源を有効・効率的に活用する必要があるため、市全体の中で公立保育園の配置の見直しを行い、その適正配置を行うことといたしました。

これらから、入園児童数、施設の老朽化、近隣に代替施設があるなどの条件により、公立保育園の統廃合を計画いたしました。

ご提案のありました入園園児の人数調整については、入園を希望する保護者のご意向があることから誘導するような調整は考えておりません。

以上により、計画の修正は行いません。

【寄せられたご意見・ご要望とそれに対する市の考え方】

受付 11

十日町市北新田 512 番地
服部 里恵子 様

寄せられたご意見・ご要望

公立の保育園・川治保育園は必要なので存続してほしい。私立では出来ない保育を公立ではしていて、子ども達の発育に必要だし、少子化問題に関しても、今も、これからも子どもを安心して預けられる保育園があり、また選択できるようでなければ安心して子育てできないので、子どもをたくさん産もう思えない。

目先だけの利益にとらわれず、子ども達が将来大人になった時に、安心して、子育てできる環境にするためにも、公立保育園は数的にも地域的にも必要です。

お母さん達が安心して働くことができれば、税金を納める事が出来て、市としても税収が増える事につながると思います。

市の考え方

十日町市全体の保育のあり方として、公立保育園と私立保育園が一体となって市全体の保育の向上を目指していきたいと考えています。私立保育園では特色ある保育が行われていますが、障がい児保育などへの支援の充実を図り、安心してお子さんを預けられる環境を整えていきたいと考えます。

限られた財源を有効かつ効率的に活用するだけでなく、子ども達の将来を見据えた場合、幼児期にはできる限り子どもの発達段階に合った保育や集団での保育が求められており、統廃合を含めた保育園の適正配置を図っていく必要があると考えます。

以上により、計画の修正は行いません。

【寄せられたご意見・ご要望とそれに対する市の考え方】

受付 12

十日町市中条己 2886 番地 1

山田 仁志 様

寄せられたご意見・ご要望

今回の十日町市の策定した公立保育園の統廃合及び民営化計画（案）について、私の意見を述べさせて頂きたいと思います。

初めにおことわりしておきますと、私は北原在住で、北原保育園の保護者の立場です。しかし、今回の私の意見は、決して北原保育園存続関係の意見ではありません。この案に対しての、あくまでも一市民として、十日町市の将来を担う子供たちのために第一として、中立な意見として述べたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

この十日町市が策定した、「公立保育園の統廃合及び民営化計画（案）」の保護者、地域の方々への説明会が、今まだ開催されている最中ですが、私も何度か説明会に参加させて頂き、十日町市、また、市長の考えやねらいをお聞かせ頂きました。

今の十日町市の財政状況、そして、市が目指そうとすること、また、全国的に民営化・統廃合が進んでいる現状を考えれば、確かにこの案は妥当だという見方が一般的には強いかもしれません。

その「十日町市が目指そうとすること」について、2点ほど述べたいと思います。

1点目です。今回の十日町市の策定した案の中では、「統廃合・民営化により削減された財源については、市全体の保育サービスの維持・向上と子育て支援に活用していきます。」となっています。

また、先日、市長と語るふれあいトークの場で、市長のお考えを聞くことができましたが、市長は「例えば、将来的に中学まで医療費無料化等の施策を行いたい。この保育園統合等の関係で生み出された貴重な財源を、そういった市民全体のために使うようにしたい。」というような要旨のお話をしてくださいました。

説明会で聞いたところによりますと、十日町市としては、医療費無料化の他にも、子ども医療費支援の充実、予防接種事業の拡大、発達支援センターの運営充実、私立保育園の障害児保育・特別保育サービスなどへの支援充実等々、生み出された財源を使いたい意向という事でした。

これは、確かに素晴らしいことだと思います。市全体の皆さんの事を考えれば、この案を推進して財源を確保し、こういった事にお金を仕向けていくことは自然の流れなのかもしれません。

強いて言うならば、後は、この生み出された財源の使い道といわれる部分をより具体的に、そして、私たち市民にもっとわかり易い形で示して頂けたなら、更にこの案への理解が深まるのではないかと思います。この、具体的にわかり易く提示するといった部分のご検討をぜひお願いいたします。

2点目の話ですが、それは、この案を推進した場合、十日町市としての中山間地が魅力に欠ける地域になってしまわないか。という事です。

確かに、今回の民営化及び統廃合（案）は、市の財政面・効率化といった面で言えば、理にかなった案だと思います。しかし、公立保育園がいくつか廃止されてしまいます。「中山間地にこそ十日町市の魅力がある」と市長が言っている面から考えた時に、矛盾が生じるケースも出てくると思います。

どういう事かと言いますと、例えば、北原保育園の地域には、池谷地区があり、現在都会からの若者移住者も移り住んで、子育てをしている方も出始めています。（北原保育

園に1名通っている子どもさんがいます) 今、十日町市の中でも、最もマスコミの注目を浴びている地域だと言っても過言ではありません。

統合、民営化をするので、「私立保育園がバスで中山間地までの送迎をやるので良いのでは。」といった見方もあるかも知れません。しかし、それでは、わざわざ遠いところまで行って、十日町市の町場で保育をする。という事になり、移住者の方々が望んでいるような里山を活かした保育という面で、欠けるのではないのでしょうか。

このニーズに答えられるのは、公立という立場の十日町市しかないと思われます。

市長は中山間地に魅力があると言っているのに、この案を推進して、まず中山間地から市の大切な施設を無くしていく、切り捨てていく、という風に捉えられてしまうと思います。もしも、こういった市の手法に対し、せっかく都会から移住して来て頂いた方が去るようなことになれば、十日町市として、財源確保以上のマイナスになりはしないのでしょうか。

少々、保育の部門を越えた広義な提案になってしまいますが、十日町市が考えた統廃合案については、中山間地についても特段の配慮を頂きながら進めていく必要があると考えます。いかがでしょうか。

また、中山間地の活性化とともに、併用して、少人数で障害児や大勢の中でなじめない子どもさんなどの受け皿としても、こういった小規模である保育園を残し、活用する道も必要だと考えます。

そして、これは公立保育園でしか出来ない事だと思います。

次の文章は、先日の市長へのふれあいトークでの提案の再掲ですが、よろしければ参考にして頂きたいと思います。

☆市長へのふれあいトークでの提案☆

□北原保育園を自然の中で豊かな子育てができる公立の保育園の位置づけで存続させる

【期待される効果】

- 北原地区に保育園が残る事で地域のコミュニティの中心となる施設が存続する
- 十日町市内の中心部に住んでいる人でも希望すれば、自然と一緒に豊かに育つ子育てができるようになる。
- 次代を担う子供たちが小さいときから十日町の自然に触れる事で十日町市への愛着がわき、大人になっても住み続けたいと思う郷土愛を育む事ができる。
- 十日町市を雪祭りや大地の芸術祭などのようなイベントだけでなく、自然の中での豊かな子育てにも力を入れている先進的な市として対外的に魅力をアピールできる。
- 都会から田舎に憧れをもつ子育て世代が安心して移住できるための一つの材料となる。

【負担として】

- 少人数の保育園の運営にかかる市の費用負担が今のまま継続する。

最後に2点の意見のまとめですが

- ① 生み出された財源の使い道といわれる部分を、より具体的、そして、私たち市民にもっとわかり易い形で示して頂きたい。
- ② 十日町市が考えた統廃合案については、中山間地についても特段の配慮を頂きながら進めていく必要があると思う。また、少人数で障害児や大勢の中でなじめない子ども

などの受け皿としても小規模な公立保育園こそ必要だと思われるが、十日町市としての見解をお聞かせ頂きたい。

こちら①②について、ご回答頂ければ幸いです。
どうぞよろしくお願いいたします。

市の考え方

- ① 公立保育園の統廃合・民営化によって生みだされた財源は、広く子育て支援事業に活用していきたいと考えています。具体的には、保育の面では私立保育園が障がい児・気になる子を受入れ易くするための助成拡大、市街地の公立保育園における障がい児等保育体制の充実、また、昨年7月から保育料統一化による保育料軽減を図りましたが、このさらなる見直しも検討したいと考えています。子育て支援事業では子ども医療費の完全無料化、平成25年4月に開設予定の発達支援センターの運営充実、予防接種事業の拡充などが具体的なものです。

- ② 中里、松代・松之山地域では、保育園は各1施設となっています。中山間地の振興は、保育園がなくなったとしても、地域の皆さんが知恵をだして取り組み、行政が支援することによって、図れるものと確信しています。池谷や赤倉などの活動がその模範例となっています。

この計画では、少人数の保育園では混合保育になっていて、年齢や発達段階にあった保育や集団保育が難しい状況にあることを改善していきたいということが大きなテーマです。保育園から小・中学校と続く集団生活の中で、幼児期は、人間形成や基本的な生活習慣を身につけるための大切な時期であり、子ども達の成長を一番に考えた場合、一定規模以上で、同年齢児の集団保育が行われる保育環境が望ましいと考えています。このため、近隣に代替施設があることなどを条件として、3園の統廃合を計画したものです。

少人数保育に良い面があることは承知していますが、それよりも通常保育は60人など一定規模以上での集団保育を行っていくことが重要と捉えており、少人数保育を積極的に進めることは考えていません。

また、障がい児や気になる子に対する保育の充実は重要であるため、私立保育園における障がい児保育への支援拡充を図り、市街地の公立保育園においてその機能を強化していきたいと考えています。

さらに、国では7月に「子ども・子育て新システム」の中間とりまとめが行われ、平成25年度導入を目指す「こども園」の内容が明らかになってきました。新システムでは、保育園・幼稚園の制度及び給付をこども園として一本化するとともに、こども園の中に質の高い学校教育（幼児教育）と保育を一体的に提供する「総合施設」を創設する方針です。総合施設では、満3歳以上児の受入れを義務付け、学校教育を全ての子どもに保障し、3歳未満児を含めて保護者の就労時間等に応じて保育を保障するとしています。国は政策的に総合施設への移行を誘導するとしています。

質の高い教育・保育を一体的に進めるためにも、一定規模以上での集団保育が必要であると考えます。また、この制度改革によって、各保育園でも幼児教育の機能が求められ、保育園・幼稚園の運営も一層厳しくなることが予想されます。

このため、早期に公立保育園の統廃合による適正配置を進めて、地域として、こども園を見据えた体制を整えておく必要があると考えています。

以上により、計画の修正は行いません。

【寄せられたご意見・ご要望とそれに対する市の考え方】

受付 13

十日町市

＜非公開希望＞

寄せられたご意見・ご要望

北原保育園は、人数を満たしているのに廃所するのはおかしいと思います。
今、少子化が進む中、安心して子育て出来る環境が必要だと思います。
保育所を減らし、民間に任せる事は、無責任で政治不信になります。

市の考え方

北原保育園の園児数はここ 10 年間ほぼ 20 人台で推移しており、統合・廃止する公立保育園の基本要件である「児童数が少なく、同年齢児の集団保育の実施や公立的な運営が困難である」に該当します。

今後も少子化が進むことが予想されることから、年齢や発達段階に合った保育や集団保育を行うためにも、保育園の適正配置を図っていきます。

適正配置を図る際には、公立保育園にこだわらず、私立保育園が近隣にある場合はそちらに担っていただきたいと考えています。

以上により、計画の修正は行いません。

【寄せられたご意見・ご要望とそれに対する市の考え方】

受付 14

十日町市中条庚 1256 番地 1
庭野 直美 様

寄せられたご意見・ご要望

十日町市公立保育園の統廃合及び民営化計画（案）を拝読いたしました。

全体を通して感じたことは、今回の民営化計画が市の財政状況をよくすることを第一目的としている、ということです。

もちろん、民営化計画（案）の中には、保育環境として少人数での混合保育が望ましくない等、その他の理由が記載されていますが、それならば現在 30 人近くもの園児の通っている保育園を廃止するのではなく、改築などして定員を増やすという方法だってあるはずです。

そもそも、十日町市保育料統一化及び保育園民営化計画策定委員会の存在自体が、保育園の民営化を前提として設置された委員会であることに疑問を感じますが、その点を除いても、委員会の中に今回廃止や統合の対象となっている保育園の関係者が一切含まれていないことは、いくら作為がないと言われても、不公平で一方的な存在であるという印象は、拭えないと思います。

また、今回保育園を統廃合して園を”適正配置”する理由として、少子化が挙げられています。

しかしながら、この点についても政策の在り方に疑問を感じずにはいられません。

現在、十日町市でも少子化が進んでいることは事実だと思います。

が、だからといって子供が減っているから保育園を減らそう、という考えには少子化をどうにか食い止めよう、十日町市の子供を増やしていこう、という考えが完全に欠如しているのではないのでしょうか？

このまま子供が減っていったら、何十年先の十日町市はいったいどうなってしまうのか、そうした長期的目線からの検討が民営化計画（案）には不足していると感じます。

実際に十日町市に住んでいる中では、2人以上の子供をお持ちの家庭がほとんどのよう感じています。

それなのに、どうして少子化が進んでいるのかといえば、それはつまり子育て世代の人口流出です。関口市長は、「子育てにやさしいまち」というスローガンを掲げて、子育て支援にも力を入れて下さっています。

実際、医療費補助を中学卒業までに延ばしてくださいましたし、保育料の値下げも実現しました。しかし、残念ながらそれらは他の自治体でも行っているような政策です。

子育て世代が「十日町市で子育てをしたい」と思う材料としては、不十分と言わざるを得ないと思います。

同じ政策を行っているなら、もっと便利な土地や違う魅力のある街が他にもあるのです。「十日町市で子育てをしたい」、そう思わせるには、もっと十日町市の特色を活かした十日町市にしかできない、魅力ある子育て支援をしなくてはいけないのではないのでしょうか？

単に国の決めた指針に従って線引きをして、定員 60 人規模に満たない保育園を統廃合するのではなく、少人数でも充実した保育、あるいは少人数だからこその行き届いた

保育、十日町市の恵まれた自然環境を活かした保育、各地域ごと園ごとに特色ある保育、等々 他の自治体では真似のできないような魅力ある子育て支援を行うことこそが、子育て世代の人口流出を食い止め、さらには新たな移住家族を増やすことにつながると考えます。

仮に現在保育園を統廃合することによって財源が確保できたとしても、それはごく一時的なものでしかありません。

長期的な視点に立って少子化対策をしていかなければ、今後どんどんと人口が減り、それによって税収は落ち込み、市の財政状況が悪化することは言うまでもありません。私自身は結婚とともに十日町市に移り住んできた者ですが、十日町市が好きです。ずっと十日町市に住み続けたいと考えています。

ですが、このまま将来市が先細って行ってしまうのではないかと、そうになったら自分は十日町市で暮らしていけるのか、不安を感じているのは、私だけではないと思います。

どうか、もっともっと長期的に十日町市の数十年先の将来の姿まで思い浮かべながら、今一度、十日町市公立保育園の統廃合及び民営化計画（案）について、検討し直していただきたいと思います。

市の考え方

この計画の主要な目的は、ご指摘いただいている市の財政状況を良くするというより、厳しい地域経済環境の中においても、子育て支援や時代ニーズに合った保育サービスの充実が求められる中で、一層の行財政の適正化を推進し、恒久的な財源を確保し、これを有効に活用していきたいこと。また、未来を担う子ども達を育んでいくために、より望ましい保育環境を整えていかなければならないことも大きなテーマです。

これらに対処するためには、まず公立保育園の配置見直しが必要であると考え、30人規模の保育園、老朽化した保育園で近隣に代替施設がある園を対象に、統廃合、民営化など具体的な取り組みを盛り込んだものです。

少人数の保育園では混合保育になっていて、年齢や発達段階にあった保育や集団保育が難しい状況にあります。保育園から小・中学校と続く集団生活の中で、幼児期は、人間形成や基本的な生活習慣を身につけるための大切な時期であり、子ども達の成長を一番に考えた場合、一定規模以上で、同年齢児の集団保育が行われる保育環境が望ましいと考えています。

一方、私立保育園では乳児保育や延長保育、休日保育など保護者ニーズに迅速に対応して柔軟に取り組んでいます。また、国県からの補助金は、私立保育園が手厚く受けられる制度になっています。

少人数保育に良い面があることは承知していますが、それよりも60人など一定規模以上での集団保育を行っていくことが重要と捉えており、少人数保育を積極的に進めることは考えていません。これらのことから、条件を設けて、私立保育園に担っていただける地域においては、公立保育園を廃止したいと考えています。

「子育てにやさしいまちづくり」を進め、「十日町市で子育てをしたい」と思っただけのためにも、全市に渡って満遍なく行き渡る子育て支援策を拡充したいと思っています。すでに保育料の低減は行いましたが、さらにこの見直しや、子ども医療費の完全無料化、発達支援センターの運営充実、予防接種の拡充など先進的な取り組みを進めていく所存です。

以上により、計画の修正は行いません。

【寄せられたご意見・ご要望とそれに対する市の考え方】

受付 15

十日町市川治 977 番地 1
柳 義彦

寄せられたご意見・ご要望

- ・私立保育園を廃止し、私立保育園へ移行するメリット・デメリット。その後の市としての子ども達への責任と義務！どのように考えていますが。
- ・私立にして、市立を減らすのは予算削減？ワイロをもらっているから？私立の定員と先生の数のバランスは？今でも私立は定員オーバーしているのに、もっと増やしてどうするの？

市立をなくすなご意見も多く出ていると思います。これらの意見を納得させる解答をお願いします。

市の考え方

市では、私立保育園で実施されている特別保育をはじめとした保育サービスを評価しています。また、公立、私立の分け隔てなく相互連携が重要だと考えており、一定の条件により私立保育園に担っていただける地域はお願いしていく方針です。

統廃合によるメリットは、混合クラス編成から年齢や発達段階に合った保育や集団保育が行える環境が整えられること、統廃合によって公立保育園の適正配置がなされ効率的な保育運営が行われるとともに、生みだされた財源で市内全般に対する子育て支援の充実が図れることなどが挙げられます。

また、私立保育園における障がい児や気になる子の保育への支援充実も重要な課題と捉えています。

なお、一部の私立保育園では、施設規模からさらなる受入れが厳しい状況にあることは承知しています。受け皿が整わなければ公立保育園の廃止は難しいことから、園側の施設整備の意向を確認しながら、市としてできる支援を行っていきたいと考えています。

以上により、計画の修正は行いません。

【寄せられたご意見・ご要望とそれに対する市の考え方】

受付 16

十日町市城之古 796 番地
高橋 久子

寄せられたご意見・ご要望

- ・長岡・小千谷地域での保育が非常に良く、進んでいるとお聞きしております。自分で調べればよいのですが、ぜひ紹介くださるとありがたく、十日町市も参考にさせていただきたいです。
 - ・川治保育園廃止後の浮いた財源（維持費等）はどのように、何に使われるのか？病後児センター開設？具体的に案は？本当に必要とされているのか？住民が必要としているのか？
- 私達（親・子）の求める保育と市の進める保育の考え方、捉え方に格差がある。説明会を重ねても、ミゾはうまるのか？

市の考え方

長岡・小千谷地域の保育の紹介については、このパブリックコメントと直接関連しないため、お返事は差し控えさせていただきます。

公立保育園の統廃合により生みだされた財源は、障がい児・気になる子の保育充実や私立保育園への支援充実、子ども医療費の無料化、発達支援センターの運営充実、予防接種の拡充など、市民ニーズの高い子育て支援事業に充てていきたいと考えています。

以上により、計画の修正は行いません。